

令和元年度第1回海津市総合教育会議議事録

1 日 時 令和元年9月18日（水）午後4時から午後5時

2 場 所 海津市役所 東館 4階 4－2会議室

3 出席者の氏名

海津市長	松永清彦
海津市教育委員会教育長	中野 昇
海津市教育委員会教育長職務代理者	伊藤亮一
海津市教育委員会教育委員	森 圭子
海津市教育委員会教育委員	大橋 利
海津市教育委員会教育委員	大津由佳

4 調査、説明等のために出席した者の氏名

海津市総務部長	白木法久
〃 総務部地方創生担当部長	高木康一
〃 総務課長	近藤康成
〃 企画財政課長	近藤三喜夫
海津市教育委員会事務局長	伊藤一人
〃 教育総務課長	大橋隆幸
〃 学校教育課長	森島利明
書 記：海津市教育委員会事務局教育総務課	池戸ゆり

5 傍聴者

な し

6 協議事項

- (1) 小中学校の適正規模等に関する検討委員会の検討状況について
- (2) 市内小中学校のいじめの現状について
- (3) 令和元年度全国学力・学習状況調査の海津市の結果分析について

発言者	発言内容
大橋教育総務課長	本日は大変お忙しいところ、令和元年度第1回海津市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 この会議は、市長と教育委員会の意思の疎通を図り、本市の教育に係る課題やあるべき姿を共有し、連携して本市の教育行政に取り組むために開催するものです。よろしくお願いします。 はじめに、松永市長よりごあいさつを申し上げます。
松永市長	平素から教育行政に力を注いでいただき感謝を申し上げます。 市長部局と教育委員会と接点を結びお互いに知恵を出し合いながら子どもたちのために何ができるか、ということを真摯に検討していくことが必要であります。 今日は、協議事項1から3について、よろしくお願いします。
大橋教育総務課長	本日の出席者については、机上に名簿を配付させていただいておりますので、名簿をもって紹介に代えさせていただきます。 それでは議題に移らせていただきます。これより先の進行は、市長にお願いします。
松永市長	一つ目の小中学校の適正規模等に関する検討委員会の検討状況について説明をお願いします。
大橋教育総務課長	小中学校の適正規模等に関する検討委員会の検討状況について、報告させていただきます。 検討委員会については、平成29年7月31日に第1回を開催し、3年目に入っている状況であります。昨年度までの内容は、市の学校規模の現状や複式学級の現状と課題について説明させていただき、また、小学校の適正規模等に関するアンケートを実施し結果を取りまとめました。今年度に入り、小学校の検討地区の選定や適正規模の方針案を検討していただいています。検討結果については、現在継続検討としている案件では、学校規模の方針案として、教育を充実する観点から「望ましい学校規模」と教育課題の顕在化等を回避するための「必要となる学校規模」の案がでています。 7月から9月にかけて、海津町地内5小学校PTA役員との懇談会を実施したので、主な意見を紹介します。 すべての小学校からは現状のままでいいという意見もありましたが、高須小学校を除く4校では複式学級は避けたい、中学校になった時に大人数になったことによって不登校になった子がいるので、大人数がよい

発言者	発言内容
	等意見がありました。統合ということであればすべての小学校から、通学路の安全確保、距離の問題から、スクールバスの導入を求める意見や具体的な案を示してもらわないと何も意見が言えないとの声もあり、検討委員会では、今後PTA役員との懇談会の結果を踏まえて、学校規模等の基本的な考え方等についてのご意見をいただき、今年度中に提言書の取りまとめをしていただくことを目標にしています。 本日、追加で配付させていただいた市内の年齢別一覧表を見ると、いくつかの小学校で今後も複式学級が予測される状況であります。
松永市長	それでは、ご意見を伺います。
大橋委員	具体的な案の提示がなければなかなか次の意見が出しにくいとの意見があったのですが、今までの検討結果から全体的に見て、望ましい学校規模とか必要となる学校規模というものが検討結果の中から出ていると思うのですが、PTAの役員からの意見の中でも、複式は避けたいというのが大半だと思います。 その中で今現在の0歳と1歳の子どもが5～6年後になるとおそらく大江と西江と下多度が複式になるという状況の中で、これからの具体案を教育委員会の中で示していかなければならない。 ある程度たたき台となるような意見・案が提示されれば色々な意見が出しやすくなり、検討委員会の段階ではなく、より、現実的な検討を進めていけるのではと思います。 今までの検討委員会の歩みはこれでよかったのですが、これからは具体的な一つの案を示したうえで次の段階に入っていくべきだと私は思います。
松永市長	検討委員会は第8回で意見集約をするのですか。
大橋教育総務課長	検討委員会として、教育委員会へ答申としての方針案を示さなければならないため、第8回を10月に予定し、その後2～3回開催しなければならないと考えています。
伊藤委員	検討結果の3番目を基本として物事を進めていくことが最善の方策だという思いがします。これを基本としていろいろな方法を考えて具体的な案を示していくことが大事であると思います。
松永市長	よく説明不足だと言われるので、どの程度から役員だけでなく関係する全てのPTAの皆さんにも説明・相談をしていくかということで、タイミングが非常に大事だと考えています。

発言者	発言内容
	あと2回、8回・9回を開催して、ある程度結論が出してもらえらるのであれば、それをPTAの役員や全体の会の中で説明していくことが必要だと思います。 そこまで話をすれば説明不足ということはないと思いますがどうですか。
大津委員	事務局は、丁寧にアンケートをとって、意見を積み上げていただいているので、検討委員会に対しては事務局から具体的な案を出して進めていった方が進みは早いと思います。
森委員	私も3番については役員さんの意見でも複式学級は避けたいとあり、3番の方針は妥当と思います。 この結果を検討委員会でも吟味して、どんな形という方向性を持ったほうが良いのではないかと思います。 そのうえでのPTAの役員以外の皆さんにもご提示しないとイケないと考えます。具体的な案を示さないと意見が出せないとの意見もあるので具体的な案を示した方が良いと思います。
松永市長	それではある程度、あと2回ほど検討委員会を行い、具体的な案を示して、今後PTA等で示して進めていくということによろしいか。
全委員	よろしい。
松永市長	それでは2番目の市内小中学校のいじめの現状について説明をお願いします。
森島学校教育課長	資料の2をご覧ください。昨年度も同じ資料を提出したので昨年との比較を中心に説明させていただきます。 なお、一昨年のH29年度からH30年度にかけていじめに関する認識が変わっているため、H29年度は認知件数が少なかったですが、H30年度から100件、200件という形になってきています。ご承知おきください。 いじめの認知件数は小学校で145件、中学校で40件合計で185件となっています。 昨年度、小学校が158件、中学校が66件の224件でしたので、両方とも少し減っており、全体で39件減っています。 昨年は、1・2年生が非常に多く、52件、42件、3年生が37件、4年生が多くて43件、5年生・6年生がともに25件でした。 今年度件数が減っている分は2年生等の認知件数が減っていたこと

発言者	発言内容
	が理由といえます。 警察に連絡した案件はなかったです。月別の認知件数では４月２３件、５月５４件、６月５４件、７月５４件となっています。昨年度と比べると６月、７月がともに７０件と昨年は超えていたので減っています。 いじめの現況ですが、３番のいじめの発見のきっかけをご覧ください。 教員の発見が、小学校が４２件、中学校が４件、教員以外の発見が小学校１０３件、中学校３６件でした。 昨年は教員の発見が小学校で７１件、中学校で３６件あったので、教員の発見が減り、教員以外の発見が増えているといえます。特に、本人からの訴えが増えています。 いじめられた生徒の相談の状況については、小学校が１３８件、中学校が１４件担任に相談したとなっています。 小学校については、昨年１４０件あったのでほぼ変わっていません。中学校については、４７件から１４件に減っている所以全体が減ったことを踏まえても少し担任に相談するのが減っています。 いじめの態様ですが、「ひやかし・からかい・悪口を言う」が、小学校３７件、中学校２６件となっています。 昨年度、小学校で７５件、中学校で２８件だったので、大幅に減っています。反対に「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」が小学校５９件、中学校１件で、昨年３２件から５９件になったため、増加している状況であります。 いじめる児童生徒への特別な対応については、特に保護者への報告、いじめられた児童生徒への謝罪が昨年に比べると１１１件ということで、Ｈ３０年度の５７件と比べると保護者への報告等を確実にやっているといえます。謝罪の指導については、昨年の１４１件から今年度が１２８件と多少減っていますが、件数が減っていることを考えると、現状は昨年と変わらないといえます。 いじめる生徒に関する関係機関の措置は特にありません。 いじめられた児童生徒への特別な対応についても、小学校・中学校ともに家庭訪問を実施したということが多いです。これは昨年度と変わっていません。

発言者	発言内容
	いじめの日常的な実態把握のために行った方法についてはアンケートをすべての学校で実施しており、この点は変わっていません。10番のいじめ問題に対する日常の取り組みもすべての項目について、すべての学校で行っており、変わっていません。 いじめの防止基本方針、いじめ未然防止・対策委員会の設置についてもすべての学校で実施しています。 アンケートの保存期間についても4年以上とすべての学校がなっています。 少し気になる部分は、13番のいじめの認知件数と現在の状況のところで、「認知があって現在解決に向けて取り組み中」というところですが、特に(2)について、小学校で1件、中学校で3件ある。この点は注意深く見ていく必要があると考えています。 長期欠席については、昨年度と変わっていませんが、少ないとは言えない状況であります。 以上です。
松永市長	市内小中学校のいじめの現状についてご意見はありませんか。
松永市長	2番目の1年生のいじめの数が減ったというのは何かの対策が功を奏したのですか。
学校教育課長	減少した原因については不明です。
大津委員	いじめの問題については数字が出ていますが、私はこの数字は多いと思っています。 一つ一つ丁寧に現場の先生が見ていただくしかないと思いますし、保護者への報告とか、学校の中での先生たちのいないところでの子どもの様子の把握などが大事でもあります。命の危険があってはいけなないので、勉強のことよりも先生たちには目を配っていただきたいと思います。保護者の立場からはそう思います。
伊藤委員	先ほどの説明の中で、教員の発見が減ったということがありましたが、この点は残念だと思います。 学校でいじめのアンケート調査を行っていただきますが、その内容を一番最初にチェックするのは担任の先生です。 担任一人に任せておくと、担任がいじめでなくて冷やかしだというように判断するといじめとして上にあげていかないことになってしまうので、できるなら複数の先生で一番最初の段階のチェックを行い、たく

発言者	発言内容
	さんの目で見えていじめかどうかの判断をしていただきたい。 担任の先生だけではいじめの判断が難しいので、生徒指導の先生等と一緒にチェックできると初期の段階で解決できるのではないかと思います。
森委員	5番のいじめの態様で、「小学校で嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたりさせられたりする」の数が増加しているのがいじめの内容が悪質化していると思えます。これがきっかけで不登校等とならないようにすべきであるし、やっていいこと悪いことの区別は指導していただきたいと思います。 勿論、家庭でも親の責任として指導をしていかなければならないし、家庭と学校が連携しながら子どもに教えていきたいと思いました。
松永市長	森委員が言われたことは同感で注意しなければならないと思います。
中野教育長	大津委員さんの、一人ひとりの子どもの様子をきめ細かく学校が把握してほしいとの話ですが、学校の先生が授業以外の子どもの休み時間や給食、掃除の時間、放課後といったところを見ていくことが以前と比べて若い先生が乏しくなったことは感じます。昔は学校は一人ひとりの生徒に付くという言葉が合言葉みたいにされていました。目を離すなということでしたが、この辺りは校長会でも盛んに校長先生を通じて指導しています。今後も校長会を通じてさらに職員指導や望ましい生徒指導に繋げていきたいと思います。 もう一つ、伊藤委員さんからあった複数の教員による確認について、昔の学校と違い今の学校は担任の先生、教務、生徒指導、校長、養護教諭の先生方以外にもアシスタントや少人数支援員、相談員、図書館司書等いろいろな職種の方がみえます。 昨年度に中学校でいじめ事案が発生した時も日日雇用の方が気付かれました。しかし学年主任に話してそこで止まっていたということもあるので、正職員以外の日日雇用・非常勤講師等の先生からもいじめの発見等に際しては、すぐに情報共有できるよう指導の流れを作っています。
大橋委員	学校に登校するときに父兄や年配の方が学校についていく登下校ボランティアの意見は、ここに示されているアンケートには加味されているのですか。
学校教育課長	アンケートは、学校で聞いたことなので対象となっていません。

発言者	発言内容
松永市長	6 番のいじめる児童生徒への対応で、保護者への報告が 1 1 1 件なのはどう考えていますか。
学校教育課長	小さなことでも保護者に伝えるようにしていますので、前年度よりそれを実行しているのでは増えているのではないかと思います。 保護者は学校の情報を知りたい方が多いのでそういう意味でも普段からコンタクトをとっていくのがいじめに関わらず、保護者との連携もできるので、こういう方向にあることが大切だと思います。
松永市長	いじめがあったときは、こういう気持ちでこういう思考の過程でいじめになることが多いというある一定パターンがあれば、加害者の保護者への指導につなげることができる。
中野教育長	細かいことでも保護者と情報を共有しておかないと、今までの状況を何で連絡してこなかったんだということになります。包み隠さず説明・指導内容を伝えることが大事だと思います。ちょっと大きくなってから連絡すると信頼関係がなくなってしまいます。
松永市長	子どもたち双方に傷をつけないような解決法を見つけられると一番いいですね。 いじめのことについては以上とします。 3 つ目、令和元年度全国学力・学習状況調査の海津市の結果分析についての説明をお願いします。
学校教育課長	今回の全国学力・学習状況調査については、中学校において英語の調査が行われ、国語・算数の調査は、教科を A（知識）、B（活用）と分けない調査が行われました。 小学校については、国語、算数とも全国平均よりやや下回る結果でした。基本的に今までの小学校を見てもやや下回る、同程度と多く、特にそこから下がっているということではないと認識をしています。今までは、国語 A・B、算数 A・B と分けていましたがそれがなくなりました。そういう面から多少は今までのデータと違うかもしれませんが、全体的に見ると今までと変わっていないと考えられます。 国語について、昨年同様良くなかったのが、「自分の考えの理由を明確に書く」「漢字を文の中で正しく書く」等、今後検討が必要だと感じました。 算数について、多少問題が変わってきていますが、「内容を説明して書く」ということがこのところ多く、記述ができないといけないので、昨年度に引き続いて弱いと感じました。 中学校については、今年から英語が入り、中学校においても昨年ま

発言者	発言内容
	では国語A・B、数学A・Bと分けていましたが分けない調査を実施しました。昨年度は、全国平均よりやや上回る傾向がありましたが、今年は国語と数学が同程度で英語がやや下回りました。英語については初めてでありましたが、ポイントで言うと4ポイントほどよくありませんでした。 国語の中身で良くなかった点は、封筒の宛名書きであります。問題の意味は分かっていますが、生活の場面でうまく活用されていません。良かった点は、「相手にわかりやすく表現して根拠を書く」で、昨年に比べ力が付いてきていると感じました。 数学の中身で良くなかった点は、「反比例の表から、xとyの関係を式で表すこと」「事象を数学的に解釈して説明すること」が弱い点であります。昨年に引き続き良くなかったので、今後の授業の工夫の仕方が課題であると思われます。 英語については、今回スピーキングもありましたが、数字としてデータに表していません。「聞くこと・話すこと」もありますが、「話すこと」のデータを文科省は出していません。今は、「話すこと」を主流に行っていますが、「書くこと」も今後は位置づけて指導していかなければいけないと感じました。 その他について、小中ともに記述式になると正答率が低くなっています。子どもたちに基礎となる知識・基本を身に着けさせると共に、書いたりする力を付けていくことが大切であります。 もう一点、無解答の率についても高いので、問題を解くことに意欲をなくしていないか見届ける必要があります。 最後に生活習慣や学習環境等に関する調査があり、小学校については、4段階の評価で上2つを見てみると、全国平均よりも高く、低いものはありませんでした。 中学校については、全国より低かったものは、「国語の勉強は好きですか」「英語の勉強は好きですか」「読書は好きですか」の質問に少し開きがありました。 以上となります。
松永市長	ただ今の説明についてご意見ありませんか。
伊藤委員	学力調査の結果については、各学校でそれぞれ指導していくことになると思いますが、資料の「2生活習慣や学習環境等に関する調査より」のうち「今住んでいる地域の行事に参加していますか」が、全国平均よりも小中ともに20%を超えているというところで、非常に注目しましたが、地域の行事に参加することは伝統文化に触れることになるため、海

発言者	発言内容
	津市内に定住することになるきっかけになると良いと思います。 将来的には少子化対策につながるのではとの思いもするので、ぜひ、児童生徒が地域の行事に参加しやすい雰囲気づくりを行政等も行っていたきたいです。
大橋委員	学校訪問を行うとどの学校も小学校英語の授業は楽しそうにやっているように見える。中学校でも活気のある授業を行ってやっている。今回の調査結果を見ていると英語がやや下回るという結果でしたが、興味を持って好きになれば学力も上がると思います。海津市は英語に関して言えばうまくいっていると思いますが、スピーキングが入っていないとはどういうことですか。
学校教育課長	今回、聞く・話す・書く・読むの中で、マイクを使ってパソコンと話をして、その言葉がどうだったかという内容でしたが、ポイント化して点数化されていません。それ以外のペーパーで実施したものの点数がこれなので、従来のテストと同様に書く力が必要かと分析しています。
中野教育長	教職38年中3年間だけ養南中学校で英語を教えました。楽しくやらせるのは簡単ですが、受験英語に打ち勝つ力・テストに正解をする力をつけるとなるとこれを楽しくさせることは難しい。これが英語教師の課題であります。英語を好きにさせると共に、テストの点を伸ばして、英語がより楽しくなるためにどうするかが課題であります。
松永市長	留学経験のある高木部長はどう思うか。
高木地方創生担当部長	リスニング、スピーキングも大事ですが、読む・書くも同様に必要であり、これらの力を付けさせる必要はあります。リスニングは年齢が高くなってからでは限界があるので、小さい頃に少し外国に住むなどでなじんでいればクリアできる場所があるので、そのあたりをどう教えていくかが難しいと感じます。
森委員	小さいうちは楽しくコミュニケーションをとるのが大事ですが、込み入った文章とかを読むとか、聞くとかを求められるようになる段階では、ライティング等の力は必要となってくると思います。
高木地方創生担当部長	どこを目標とするかだと思います。イギリスに留学するのを目標とするのであればライティングまで必要だし、海外旅行で話すレベルならばスピーキングでいいと思います。
森委員	大学で勉強することを考えると、英語の文献を読むなどが必要であり、その力が求められると思います。各分野で英語資料を読むことが求

発言者	発言内容
	められると思うと、大学でそれをできるくらいの学力を求めたいということになってきますし、企業からしたら、海外での業務のために英語コミュニケーション能力が求められ、そこには簡単な旅行英語以上の力、論理の組み立ての力、順序良く組み立てる能力等が求められてくる。小中は入口なので、英語を好きになる、嫌いにさせないことが大事であると思います。
松永市長	海津市は「英語の勉強は好きですか」の問いに、全国順位からみると低いので残念である。
中野教育長	対象は、中学３年生であり、受験英語の時期にやはり難しさを感じるようになるのだと思います。
森島学校教育課長	低いとはなっていますが、５％程度なので大きく差があるまではなっていないと思います。 英語よりも国語の方が嫌いなパーセントは増えています。
森委員	中学校、小学校を回ると学力状況調査を分析して必要なことへの指導を行っていただいています。が、「中学校の国語の文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えるということ」、「数学の事象に即して解釈することができるということ」について、これから高校、大学、社会に行ったときに情報を整理して内容を捉えて必要なことを論理立てて伝えるとかある現象から分析して解釈することは求められると思います。こういった力を身に付けることは時間がかかると考えますが、力を付け伸ばしていただきたいです。 その他のところで「記述の問題の正答率が低くなっている」、「無回答がある」ということで、難しいからダメとあきらめる子どもが増えているのであれば、根気よく取り組むことができるよう指導をお願いします。
松永市長	他にご意見ありませんか。
全委員	ありません。
松永市長	ないようですので、事務局へ返します。
大橋教育総務課長	これもちまして、第１回総合教育会議を終了します。ありがとうございました。

閉会 午後５時１０分